

令和元年度静岡病院決算について

1 主な診療実績

○患者数

入院	令和元年度実績	平成30年度実績	増減
延患者数	164,860人	167,789人	△ 2,929人
1日平均患者数	450人	460人	△ 10人
新患者数	12,502人	12,767人	△ 265人

外来	令和元年度実績	平成30年度実績	増減
延患者数	278,772人	279,826人	△ 1,054人
1日平均患者数	1,162人	1,147人	15人
新患者数	23,940人	24,699人	△ 759人

○稼働状況等

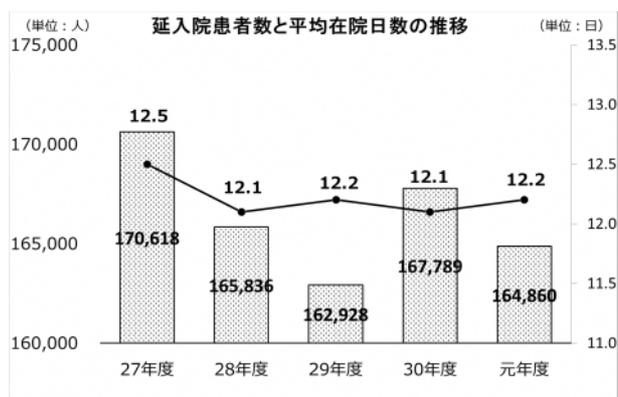
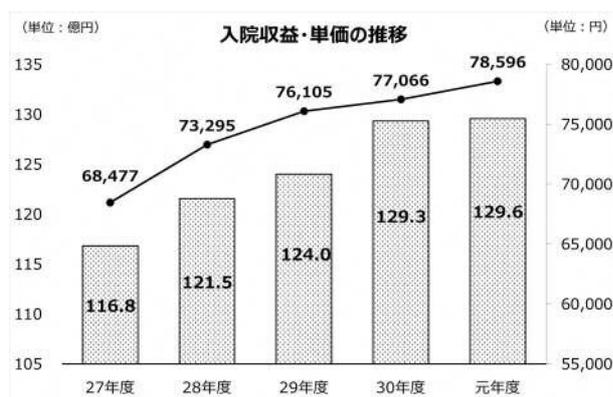
区分	令和元年度実績	平成30年度実績	増減
病床稼働率	89.0%	90.8%	△ 1.8P
平均在院日数	12.2日	12.1日	0.1日
手術件数	5,317件	5,153件	164件
紹介率	86.7%	85.8%	0.9P
逆紹介率	135.9%	127.2%	8.7P

○経営指標

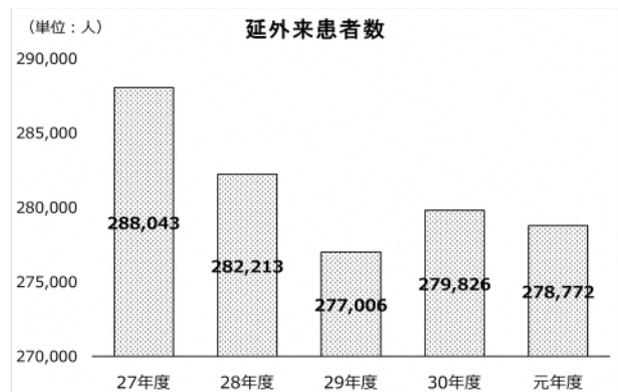
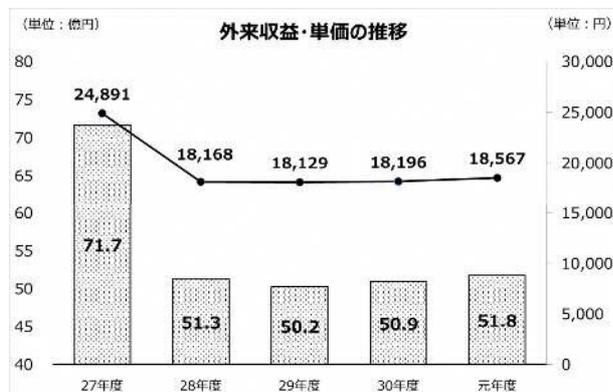
区分	令和元年度実績	平成30年度実績	増減
入院単価	78,596円	77,066円	1,530円
外来単価	18,567円	18,196円	371円
総収支比率	100.1%	100.3%	△ 0.2P
経常収支比率	100.1%	100.3%	△ 0.2P
医業収支比率	96.5%	97.5%	△ 1.0P
給与費比率	48.0%	47.5%	0.5P
材料費比率	31.8%	31.0%	0.8P
経費比率	16.6%	16.7%	△ 0.1P
減価償却費比率	6.8%	7.0%	△ 0.2P

2 患者動向等について

○入院



○外来



3 令和元年度決算概要について（財務諸表）

令和元年度の決算は、総収益205億69百万円に対し、総費用は205億46百万円であった。

医業収益については、前年度に比べ、新たな施設基準取得等による診療単価の上昇や、保険請求が可能な高額診療材料使用の結果、88百万円増の184億85百万円となり、そのうち入院収益は、26百万円増の129億57百万円、外来収益は84百万円増の51億76百万円となった。

費用については、前年度に比べ、医業費用及び一般管理費をあわせた給与費は、給与改定や看護体制維持に必要な看護師の増加等により、1億86百万円増の92億79百万円となった。

また、材料費は高額診療材料の使用増（保険請求可能）により、1億76百万円増の58億77百万円、減価償却費は中に高額医療器械の更新等を行ったものの、償却対象となる資産の減少により、40百万円減の12億54百万円となった。

第2期中期計画期間の初年度となる令和元年度の当期純利益は、23百万円の黒字となった。

(1) 損益計算書の概要

一会計期間（4月1日から翌年3月31日までの1年間）に属するすべての収益と費用を記載した法人の経営成績を明らかにしたものです。

(単位:百万円)

項目	令和元年度①	平成30年度②	増減額①-②	主な増減理由
総収益	20,569	20,171	398	
営業収益	20,368	19,933	435	
医業収益	18,485	18,396	88	
入院収益	12,957	12,931	26	延患者数:△2,929人(元年度:164,860人 30年度:167,789人) 単価:+1,530円(元年度:78,596円 30年度:77,066円) 病床稼働率:△1.8P(元年度:89.0% 30年度:90.8%)
外来収益	5,176	5,092	84	延患者数:△1,054人(元年度:278,772人 30年度:279,826人) 単価:+371円(元年度18,567円 30年度18,196円)
その他医業収益	393	415	△ 22	※室料差額収益、文書料、健診料
保険等査定減	△ 42	△ 41	△ 1	
運営費負担金収益	1,788	1,483	305	中期計画どおり
補助金等収益	81	40	41	輪番制補助金36百万円を運営費負担金収益から科目変更
寄附金収益	1	1	0	
資産見返戻入	14	13	0	※負担金等財源取得資産の減価償却費見合い分収益計上
営業外収益	196	238	△ 42	
運営費負担金収益	62	69	△ 7	中期計画どおり
財務収益	2	1	1	※預金利息
その他医業外収益	132	167	△ 36	※売店・食堂等の目的外使用料、駐車場使用料
臨時利益	4	0	4	
その他臨時利益	4	0	4	※貸倒引当金戻入益
総費用	20,546	20,105	441	
営業費用	19,577	19,256	321	
医業費用	19,148	18,859	288	
給与費	8,880	8,731	150	正職員(再任用を含む)の年度中在職者数の差による給料・手当・賞与・法定福利費の増等 当初 年度末 30年度: 897人 → 857人(△40人) 元年度: 899人 → 890人(△9人)
材料費	5,877	5,701	176	診療材料費+120百万円(元年度2,986百万円 30年度2,867百万円) 保険請求可能な診療材料の増加 薬品費+63百万円(元年度2,850百万円 30年度2,786百万円) 医療消耗備品費△6百万円(元年度26百万円 30年度32百万円)
減価償却費	1,251	1,290	△ 39	償却対象資産の減少
経費	3,073	3,069	4	修繕費+39百万円、報償費+31百万円、賃借料△33百万円、光熱水費△15百万円、貸倒引当金繰入△12百万円、負担金△3百万円、委託料△3百万円
研究研修費	67	69	△ 2	
一般管理費	430	397	33	
給与費	399	363	36	役員報酬の増加
減価償却費	3	4	△ 1	
経費	27	29	△ 2	
営業外費用	968	848	120	
財務費用	125	133	△ 8	※支払利息(移行前地方債・長期借入金)、リース利息
消費税	834	704	130	増税による控除対象外消費税の増加
雑損失	9	11	△ 2	※賠償金
臨時損失	0	0	0	
固定資産除却損	0	0	0	
その他臨時損失	0	0	0	
当期純利益	23	66	△ 43	

(注)表中の数値は各項目ごと百万円未満を四捨五入しているため、合計及び増減額が一致しない場合があります。

(2) 貸借対照表の概要

決算日（3月31日時点）におけるすべての資産（資金の運用形態）、負債及び純資産（資金の調達方法）を記載した法人の財政状況を明らかにしたものです。

（単位：百万円）

項目	令和元年度末①	平成30年度末②	増減額①-②	主な増減理由
資産の部	18,612	18,891	△ 279	
固定資産	11,127	11,532	△ 404	
土地	3,001	3,001	0	
建物	5,804	6,118	△ 315	東館・西館等減価償却による減少
構築物	9	13	△ 5	オイルタンク等減価償却による減少
器械備品	1,778	1,605	173	医療機器（血管撮影装置等）の増加
車両	0	0	0	
リース資産	81	288	△ 208	電子カルテ・ネットワーク機器等減価償却による減少
建設仮勘定	9	14	△ 5	
電話加入権	0	0	0	
長期貸付金	445	488	△ 43	看護師修学資金の新規貸付減少及び返還額増加
破産更生債権等	63	69	△ 5	
貸倒引当金（破産更生債権等）	△ 63	△ 69	5	
その他投資	1	4	△ 3	※借上げ住宅敷金
流動資産	7,485	7,360	125	
現金及び預金	4,113	3,897	216	※(3)キャッシュ・フロー計算書参照
未収金	3,140	3,212	△ 72	外来分の国保・社保請求2・3月分の減少等
貸倒引当金	△ 37	△ 43	5	
医薬品	130	146	△ 16	
診療材料	125	119	6	
前払金	13	26	△ 13	東5血管撮影室工事分の減少
その他流動資産	2	2	0	※火災保険前払分、預金利息未収分
負債の部	13,351	13,652	△ 302	
固定負債	10,549	11,095	△ 546	
資産見返負債	177	158	19	
長期借入金	600	540	60	医療機器購入のための借入による増加
移行前地方債償還債務	5,281	5,648	△ 366	既往債の償還が進んだことによる減少
引当金	4,490	4,665	△ 175	退職給付引当金の減少
リース債務	1	84	△ 83	リース支払が進んだことによる減少
流動負債	2,802	2,557	244	
一年以内返済予定長期借入金	240	180	60	医療機器購入のための借入による増加
一年以内返済予定移行前地方債償還債務	366	361	6	
未払金	1,478	1,188	290	3月末退職者への退職金未払計上による増加
未払費用	83	82	2	
引当金	433	416	17	賞与引当金の増加
一年以内支払予定リース債務	85	227	△ 142	R02年度にリース支払終了を迎えることによる
その他流動負債	115	103	12	※預り諸税、預り納付金
純資産の部	5,262	5,239	23	
資本金	4,919	4,919	0	※静岡市出資金
資本剰余金	0	0	0	
利益剰余金	342	320	23	
前期中期目標期間繰越積立金	320	0	320	第1期中期目標期間からの繰越
目的積立金	0	253	△ 253	前期中期目標期間繰越積立金への振替による減少
当期末処分利益	23	66	△ 43	
うち当期純利益	23	66	△ 43	

（注）表中の数値は各項目ごと百万円未満を四捨五入しているため、合計及び増減額が一致しない場合があります。

(3) キャッシュ・フロー計算書の概要

一会計期間（4月1日から翌年3月31日までの1年間）における業務活動、投資活動及び財務活動の3つの区分に分けて資金の流れを明らかにしたもので、現金と普通預金の動きを示しています。

(単位:百万円)

項目	令和元年度①	平成30年度②	増減①-②	主な増減理由
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,557	1,387	171	
材料の購入による支出	△ 6,402	△ 6,205	△ 197	診療材料支払額の増加による
人件費支出	△ 9,201	△ 9,161	△ 40	給料等支払額の増加による
その他の業務活動による支出	△ 3,371	△ 3,308	△ 62	
医業収入	18,538	18,441	97	医業収益の増加による
運営費負担金収入	1,850	1,552	298	中期計画どおり
補助金等収入	95	39	55	輪番制補助金を運営費負担金収入から科目変更したことによる
寄附金収入	30	1	29	
その他の業務活動による収入	143	161	△ 18	
利息及び配当金の受取額	2	2	0	
利息の支払額	△ 125	△ 133	8	
投資活動によるキャッシュ・フロー	624	△ 357	981	
定期預金の戻入による収入	3,500	4,400	△ 900	
定期預金の預入による支出	△ 2,000	△ 4,100	2,100	
有形固定資産の取得による支出	△ 841	△ 555	△ 286	血管撮影装置3台更新等の購入額増加による
貸付金の回収による収入	63	28	36	
貸付による支出	△ 98	△ 130	32	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 465	△ 479	14	
長期借入れによる収入	300	300	0	
長期借入金の返済による支出	△ 180	△ 120	△ 60	平成28年度～平成30年度借入分の返済による増加
移行前地方債償還債務の償還による支出	△ 361	△ 432	71	既往債の償還額が減少したことによる
リース債務の返済による支出	△ 225	△ 228	3	
資金増加額	1,716	550	1,166	
資金期首残高	897	346	550	
資金期末残高	2,613	897	1,716	

(注1) 期首及び期末時点で運用中の定期預金は、資金に含んでおりません。

(注2) 表中の数値は各項目ごと百万円未満を四捨五入しているため、合計及び増減額が一致しない場合があります。

定期預金含む資金残高

(単位:百万円)

区分	令和元年度①	平成30年度②	増減①-②
資金期末残高	2,613	897	1,716
定期預金	1,500	3,000	△ 1,500
合計額	4,113	3,897	216

(注) 合計額は貸借対照表「資産の部」の「現金及び預金」の金額と一致します。

(4) 長期借入金及び移行前地方債償還債務の状況

長期借入金（市からの借入金）及び移行前地方債償還債務（地方独立行政法人移行前に借り入れた地方債の償還債務）の状況は次のとおりです。

(単位:千円)

区分	期首残高 (H31.4.1)	増減額			期末残高 (R2.3.31)	備考
		新規借入額 (A)	償還額(B)	計(A)-(B)		
長期借入金	720,000	300,000	180,000	120,000	840,000	医療機器整備
移行前地方債償還債務	6,008,474	0	360,749	△ 360,749	5,647,725	建設改良資金
計	6,728,474	300,000	540,749	△ 240,749	6,487,725	